

公立大学法人神奈川県立保健福祉大学
令和2年度 業務実績評価書 (案)

令和3年9月

神奈川県公立大学法人
神奈川県立保健福祉大学評価委員会

神奈川県公立大学法人神奈川県立保健福祉大学評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第78条の2に基づき、次のとおり公立大学法人神奈川県立保健福祉大学（以下「保健福祉大学」という。）の令和2年度の業務実績に関する評価を実施した。

1 年度評価の基本方針

業務実績に関する評価は、「公立大学法人神奈川県立保健福祉大学の各事業年度の業務の実績に関する評価の実施基準」（平成30年9月20日決定）に基づき、次のとおり行う。

(1) 基本方針

- ア 中期目標の達成に向けて、法人の中期計画の事業の進捗状況を評定する。
- イ 県民への説明責任の観点から、評価を通じて、中期目標の達成状況や業務の実施状況を分かりやすく示す。
- ウ 法人の組織・業務運営等に関して改善すべき点を明らかにすることにより、法人運営の質的向上に資する。

(2) 評価区分

年度評価に当たっては、法人から提出された業務実績報告書等を基に、法人からのヒアリングを実施するなど調査・分析のうえ、業務の実績の全体について検証を行う。業務実績の検証は、年度計画に記載されている各項目の事業の進捗状況及び成果等について、できる限り客観的なデータにより適正に行う。

ア 項目別評価（小項目評価）

評価委員会は、項目（小項目）ごとに、法人の自己評価及び年度計画の目標設定の妥当性などを総合的に検証し、法人の自己評価と同じ5段階の区分により評価する。評価委員会による評価と法人の自己評価が異なる場合は、評価委員会が評価の判断理由等を示すとともに、必要に応じて、特筆すべき点や改善すべき点等があればコメントを付す。

イ 項目別評価（大項目評価）

評価委員会は、項目（大項目）ごとに、業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、以下の5段階の区分により評価する。

- S：中期計画の達成に向けて特筆すべき優れた進捗状況にある。
- A：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
- B：中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。
- C：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。
- D：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

ウ 全体評価

評価委員会は、全体評価について、業務実績の検証や項目別評価の結果を踏まえ、法人の中期計画の進捗状況全体について総合的に判断し、記述式で評価をする。また、必要があるときは、法人に対して業務運営の改善その他の勧告をすることができる。

2 全体評価

令和2年度は、全体として中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

(項目別評価の結果)

- (1) 大項目1「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」
小項目28項目中4項目で年度計画を大幅に上回る実績・成果を上げているほか、24項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。
- (2) 大項目2「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」
小項目3項目中3項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。
- (3) 大項目3「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」
小項目3項目中3項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。
- (4) 大項目4「その他業務運営に関する重要な目標を達成するための措置」
小項目4項目中4項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。
- (5) 大項目5「自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置」
小項目2項目中2項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

全体評価	項目別評価				
	大項目	評価	小項目(評価基準)	項目数	
中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	1	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	4
				A(ほぼ100%実施)	24
				B(80%程度以上)	0
				C(60~80%未満)	0
				D(60%未満)	0
				項目数 計	28
	2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	0
				A(ほぼ100%実施)	3
				B(80%程度以上)	0
				C(60~80%未満)	0
				D(60%未満)	0
				項目数 計	3
	3	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	0
				A(ほぼ100%実施)	3
				B(80%程度以上)	0
				C(60~80%未満)	0
				D(60%未満)	0
				項目数 計	3
	4	その他業務運営に関する重要な目標を達成するための措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	0
				A(ほぼ100%実施)	4
B(80%程度以上)				0	
C(60~80%未満)				0	
D(60%未満)				0	
項目数 計				4	
5	自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置	A 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。	S(年度計画を大幅に上回る)	0	
			A(ほぼ100%実施)	2	
			B(80%程度以上)	0	
			C(60~80%未満)	0	
			D(60%未満)	0	
			項目数 計	2	

(業務実績の状況)

第一期中期計画の3年目である令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、教職員による様々な努力により諸課題の解消に励み、ヒューマンサービスの理念に基づいた教育及び研究活動に引き続き取り組んだ。また、実践教育センターの職員等が感染症関連業務の支援を行い、県の感染症対策に大いに貢献した。令和3年3月にはヘルスイノベーション研究科から初めての修了生を輩出し、保健医療等の分野における社会システムや技術の革新を起こすことができる人材の育成に寄与した。横須賀・横浜・川崎の3キャンパスによる相乗効果を発揮した法人運営となった。

3 大項目評価

(1) 大項目1「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価

(業務実績の状況)

就職希望者就職率(学部)は、新型コロナウイルス感染症の影響も考慮した就職支援を行い、100%を達成した。

国家試験合格率についても、早期からの動機付けに配慮した教育により、助産師、精神保健福祉士を除くすべての資格*で目標値97%以上の達成を果たし、高く評価できる。

※ 看護師・保健師・管理栄養士・社会福祉士・介護福祉士・理学療法士・作業療法士

なお、国家試験合格者の66%が県内に就職していることから、県立大学としての使命を果たしている。

大学院ヘルスイノベーション研究科修士課程においては、初めての修了生(12名)を輩出した。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた教育活動について、講義に関してはオンライン授業へ速やかに移行し、また、演習等の必須となる対面授業に関しては感染予防策を講じて行った。一部の卒業生については卒業フォローアップ研修も予定しているとのことで、教育の質を最大限保証できるよう努力していると認められる。ただし、オンライン授業では、すべての学生の反応を把握しきれない等の対面授業にはない課題も指摘されているため、開催方法のさらなる改善に向けた検討を今後も続け、さらなる教育の質の向上を目指してほしい。

研究の質の向上について、特に科学研究費助成事業における成果が目覚ましく、令和2年度新規採択分で採択率43.1%を達成し、「研究者が所属する研究機関別採択率上位30機関」で全国第7位となった(文部科学省研究振興局「科学研究費助成事業の配分結果(令和3年1月15日公表)」より)。

社会貢献については、専門職員・教職員が、県からの派遣要請のもと、県対策本部や県内医療機関、保健所等において、感染予防活動への技術的支援のほか、様々な業務支援に携わった。

公開講座・市民大学開催回数は目標値の15回を大きく上回る34回となった。特にイノベーション政策研究センターは、昨年度に引き続き、他大学との連携によるセミナーを行ったほか、ヘルスイノベーション研究科と共催した「再生医療特論」は6,000人を超える申込者があった。コロナ禍においてもオンラインでの配信等、その開催方法を工夫して積極的に取り組み、大学の知の拠点としての役割を果たした。

(評価結果と判断理由)

令和2年度業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、**A評価(中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある)**とする。

「教育に関する目標を達成するためとるべき措置」、「学生への支援に関する

目標を達成するためとるべき措置」、「研究に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「社会貢献に関する目標を達成するためとるべき措置」の4つの面における取組をそれぞれ検証した。

小項目28項目中4項目で年度計画を大幅に上回る実績・成果を上げているほか、24項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

(小項目評価の主な内容)

・年度計画を大幅に上回る実績・成果を上げている主な事項（S評価）

<小項目○>

・年度計画を達成している主な事項（A評価）

<小項目○>

(評価にあたっての意見、指摘等)

- 研究については普遍的な評価を、財務については収入と支出の分析に基づく内向きの目標設定を、地域貢献については大学独自のイノベータ的な地元貢献を期待する。
- コロナ禍において、日々環境が激変する中、オンライン化等への迅速な対応と、保健福祉大学らしい学生に寄り添った運営を評価する。
- 学習機会の拡大や、経費抑制効果含め、オンライン化によるメリットは大きいと考えるが、教育においても法人運営においても、主にコミュニケーションという観点からデメリットも考えられる。保健福祉大学らしい分析と対応に期待する。
- 常勤の教員数を充足できていない状況が継続しているが、クロスアポイントメント制度の活用や他キャンパスの教員による講義等で対応している。このような中で、ヒューマンサービスを実践できる人材育成を行う保健福祉大学らしい、学生に寄り添った少人数教育を行うには、どのような教員の人員構成を目指すのか明らかにしていくことが重要と考える。
- パンデミックにより変化のスピードが加速する現代において、機動的に計画を見直し実行することは組織の成長に欠かせないものとする。中期計画で掲げられている目標は「普遍的価値を持ち達成されるべき目標」とのことだが、それではPDCAサイクルを通じて、組織が成長することを期待できない中期計画になってしまう。コロナ禍を経て、保健福祉大学に期待される役割も変化していると思う。数値目標が目指す姿を達成するために適切なものとなっているか含め、改めて検討してもらいたい。
- 数値目標が設定されていない小項目があるが、自己評価の文面だけでは客観的評価がしにくいいため、検討してもらいたい。
- 新型コロナウイルス感染症は広範囲に影響を及ぼしていると思われるが、これらを評価する際、評価者によって判断基準に差が生じているのではないかと。

(2) 大項目2「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価

(業務実績の状況)

クロスアポイントメント制度を活用し、他大学や医療機関の第一線で活躍する人材を教員に迎えている。

(評価結果と判断理由)

令和2年度業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、A評価とする。

「運営体制の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」、「人事の適正化に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するためとるべき措置」の3つの面における取組をそれぞれ検証したところ、小項目3項目中3項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

(小項目評価の主な内容)

- ・年度計画を達成している主な事項（A評価）

<小項目○>

(3) 大項目3「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価

(業務実績の状況)

自己収入の確保について、外部講師を招いた研修会の実施等により、科学研究費助成事業の採択件数を高水準に維持したことが高く評価できる。

(評価結果と判断理由)

令和2年度業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、A評価とする。

「自己収入の増加に関する目標を達成するためとるべき措置」、「経費の抑制に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「資産の運用管理に関する目標を達成するためとるべき措置」の3つの面における取組をそれぞれ検証したところ、小項目3項目中3項目で年度計画に記載された事項がほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況であることから、A評価が妥当であると判断した。

(小項目評価の主な内容)

- ・年度計画を達成している主な事項（A評価）

<小項目○>

(4) 大項目4「その他業務運営に関する重要な目標を達成するための措置」に関する評価

(業務実績の状況)

学内全域へのWi-Fiの導入や什器更新の検討など、施設設備の充実に取り組んだ。webサイトや大学案内の全面リニューアルのほか、SNSでの発信も継続し、広報機能の強化を図った。

(評価結果と判断理由)

令和2年度業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、A評価とする。

「施設設備の整備、活用等に関する目標を達成するためとるべき措置」、「安全管理に関する目標を達成するためとるべき措置」、「情報公開等の推進に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「社会的責任に関する目標を達成するためとるべき措置」の4つの面における取組をそれぞれ検証したところ、小項目4項目中4項目で年度計画に記載された事項が**ほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況**であることから、A評価が妥当であると判断した。

(小項目評価の主な内容)

- ・年度計画を達成している主な事項（A評価）

<小項目○>

(5) 大項目5「自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する評価

(業務実績の状況)

定期的に自己評価専門部会、自己評価審査会を開催し、業務の進捗管理を行ったほか、新たに学内自己評価基準を策定し、大学の実情を反映した自己評価が実現できている。

(評価結果と判断理由)

令和2年度業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、A評価とする。

「自己点検及び評価の充実にに関する目標を達成するためとるべき措置」及び「自己点検及び評価の状況に関する情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置」の2つの面における取組をそれぞれ検証したところ、小項目2項目のうち2項目で年度計画に記載された事項が**ほぼ100%計画どおり実施されており、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況**であることから、A評価が妥当であると判断した。

(小項目評価の主な内容)

- ・年度計画を達成している主な事項（A評価）

<小項目○>

4 評価委員会の概要

- (1) 令和3年度神奈川県公立大学法人神奈川県立保健福祉大学評価委員会委員
- | | | |
|------|-------|--------------------------|
| 委員長 | 梅原 出 | (国立大学法人横浜国立大学学長) |
| 副委員長 | 鹿島 勇 | (神奈川歯科大学理事長) |
| 委員 | 鈴木 智子 | (公認会計士) |
| 委員 | 竹村 克二 | (公益社団法人神奈川県医師会副会長) |
| 委員 | 長野 広敬 | (公益社団法人神奈川県看護協会会長) |
| 委員 | 山田 晃久 | (株式会社山田債権回収管理総合事務所代表取締役) |
- (2) 評価委員会実施状況
- 第一回 令和3年7月13日(火) ※一部web開催
 - ・業務実績報告書について
 - ・財務諸表等・利益処分案の報告について

 - 第二回 令和3年8月6日(金) ※web開催
 - ・業務実績評価書(案)について
 - ・財務諸表等に対する意見書について